

20 土第 1116 号
平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長 様

南相馬市長 渡 辺 一 成



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のありましたこのことについて、
別添のとおり回答いたします。

事務担当 建設部 土木課 土木企画係
TEL0244-24-5252 FAX0244-24-6151

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

地方にとって道路は「地域産業や市民生活を支える最も基礎的な社会資本であり、地域の目指すまちづくりを具現化させる重要なツール」とであると認識しております。

本市においては、常磐自動車道が平成23年度に供用開始される予定となっており、企業誘致や物流機能の強化、観光開発など地域の活性化と結びつく施策を行うため、交流・連携を促進する基幹道路の整備が急務となっております。

また、通学路の安全対策及び中心市街地のバリアフリー対策の推進や橋梁などの既存道路ストックの高齢化に伴う長寿命化対策など更なる事業が予定されております。

今後、計画的かつ効率的な事業展開が図られるよう、以下の項目を要望します。

- ① 道路財源の確保
(一般財源化される道路特定財源の適切な道路予算への配分)
- ② 維持管理予算の拡充
(既存道路ストックの長寿命化対策による費用の確保)
- ③ 事業のスピードアップ
(早期効果の実現を図るため、国庫補助事務の効率化・簡素化)
- ④ 補助採択基準の緩和
(橋梁の耐震化、長寿命化に伴う採択基準の緩和)
(バリアフリー新法に伴う対策事業における補助の創設)

②－１地域の現状と抱える課題

福島県南相馬市

○現状	○課題
①本市は平成１８年１月１日に３市町が合併しましたが、地域間連絡道路等の整備が遅れている状況です。 ②当地方は全国有数の電源立地でありながら高速交通網の整備が遅れている状況です。 ③当地方には高次医療施設がないことから、１時間以内に搬送できる道路整備が期待されています。 ④通学路の安全対策が未だ遅れているのが現状です。また、本市は中心市街地の歩行者・自転車の事故発生率が県内において高い地区となっています。 ⑤既存ストックの高齢化 ⑥生活道路については、依然として地域からの整備要望が数多く寄せられていますが、整備が進まない状況となっています。	①新市の一体化及び均衡ある発展のため、旧市町における中心市街地を結ぶ幹線道路の整備促進及び各観光地へのアクセス道路の整備が課題となっています。 ②緊急時における物資の輸送路及び企業誘致や物流機能の強化、観光開発など地域の活性化と結びつく施策を行うため、交流・連携を促進する基幹道路の整備が課題となっています。 （常磐自動車道インターチェンジまでの県道及び市道の幹線道路の整備） ③１時間以内に高次医療施設への搬送を実現するため、国道６号の渋滞対策及び（主）原町川俣線の高規格道路の整備が緊急の課題となっています。 ④交安指定道路における自歩道整備及び落石対策の推進を図るとともに、中心市街地における交通安全施設の設置・バリアフリー化など交通弱者に対する安全の確保が課題となっています。 ⑤本市の橋梁においても全国的な状況と同様に、高度成長期の１９６０年代から７０年代にかけて多く建設されました。今後、急速に高齢化を迎えることから、既存ストックの長寿命化対策が緊急の課題となっています。 ⑥財源の確保が課題となっています。

②-2 地域の目指すべき将来像

福島県南相馬市

将来像『ともにつくる 活力 に満ちた 安心 で 潤い のある南相馬』

●3つの重点施策

①経済と地域の力を高める「活力」

⇒常磐自動車道と国道6号を結ぶアクセス道路などの整備や、自然やスポーツ・文化をいかした交流人口の拡大、農産物の販路拡大などの“ひと”と“もの”が行き交う施策に取り組みます。

②住み続けられるための「安心」

⇒耐震化事業の推進を図るとともに、既存ストックの長寿命化及び人にやさしい道づくりの整備を行い、災害に強く、安心で安全な都市基盤の構築を図ります。

③“ひと” と “まち” の「潤い」

⇒歴史や文化をいかした景観形成を図り、ここに残るふるさとの風景の保全に取り組みます。

●将来のまちの姿

①地域を担い、未来を拓くひとを育てるまち

⇒地域の思いを実現するために、地域の担い手となる市民のちからが発揮されています。

②生涯現役の生きがいを支える仕事おこしと社会参加のあるまち

⇒心身の健康づくりと生きがいや、生活を支える仕事があります。そこには働く環境づくりや生活起点の新しい仕事づくりを地域で応援し、自分らしく生きることができる地域づくりが実践されています。

③自然と寄り添うふるさとの風景があるまち

⇒自然災害が少なく、緑豊かな風景があり、この先人から引き継いだ豊かで安全安心なふるさとを、市民はもとより、本市を訪れた人も大切にしています。

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
安心と潤いのある機能的なまちづくりの形成 地域資源と知恵を活かす産業と交流のまちづくりの形成	①人と環境にやさしい道づくりの推進 【あんしん歩行エリア整備事業】 ②橋梁長寿命化の推進 【橋梁長寿命化修繕計画策定事業】 ③観光交流情報の発信の充実 【SA 利活用拠点整備事業 (スマート IC) (高速バス停)】	①歩行者・自転車の交通事故発生率が最も高い区域を設定し、福島県及び公安委員会と連携を図り安全対策を実施し、事故発生件数を2割軽減させることを目標としています。 ②既存橋梁の維持管理について、従来の対症的療法から予防的な修繕等へと政策転換を図ることにより、橋梁の長寿命化や管理コストの縮減、平準化を図ります。 ③常磐道県内唯一のサービスエリアを有効的・効率的に利用するためスマート IC を整備し、サービスエリアを利用した人が隣接する情報ターミナル(市が建設)により福島県や相双地方の多彩な魅力・情報を入手し、気軽に目的地へ駐車場から出る感覚で安心して利用できるように誘導します。またパーク＆ライドの導入により高速バスへの乗換えが可能になり高速利用の利便性を向上させ、サービスエリアの効率的な活用と地域の交流人口の増加が期待されます。	

補足資料（様式①）

○要望趣旨

① 道路財源の確保（一般財源化される道路特定財源の適切な道路予算への配分）

道路特定財源が一般財源化されることになりましたが、地方にとっての道路整備の重要性を十分に踏まえ、適切な道路予算への配分を要望するものであります。

② 維持管理予算の拡充（既存道路ストックの長寿命化対策による費用の確保）

本市では約600橋の橋梁がありますが、その多くが高度成長期の1960年から70年代に建設されたものです。今後、多くの橋梁が急速に高齢化を迎えることから、維持管理予算の拡充を要望するものであります。

③ 事業のスピードアップ（早期効果の実現を図るため、国庫補助事務の効率化・簡素化）

現在行っている地方道交付金事業について、事業期間が5年以内かつ年度事業費の上限が5億円というコンパクト事業となっており、地方にとって非常に使い勝手が良いものとなっています。

しかし、毎年度の要望事務、申請事務、実績報告等は従来の補助事業と同様の手続きとなっているため、人為削減など、今後地方の少人数体制では、事務の負担が大きくなることが予想されます。

従いまして、早期効果の実現を図るため、更なる事務の効率化、簡素化を要望するものであります。

④ 補助採択基準の緩和（橋梁の耐震化、長寿命化に伴う採択基準の緩和・バリアフリー新法に伴う対策事業における補助の創設）

現在、本市では橋梁長寿命化修繕計画に係る事前調査を行っているところでありますが、今度、計画を策定する際、重要橋梁のみの補助基準では、全体の2割程度しか補助として対応できない状況となっています。道路管理者にとっては、橋長に関係なくすべての橋梁が重要であると認識していることから、更なる補助対象基準の緩和を要望するものであります。また、計画策定後は職員自ら定期的な点検を行うことが想定されることから、地方の少人数体制で円滑な維持管理ができるよう台帳システム構築に係る費用の補助対象も併せて要望いたします。

バリアフリー新法に伴う対策事業については、中心市街地の歩道段差解消や点字ブロックの設置など交通弱者に対する事故抑制及び高齢化社会に適用した住環境づくりを推進するため、要望するものであります。